

井原市議会9月定例会は、9月5日（月）開会予定です。一般質問は、7日（水）から9日（金）までの3日間になると思いますが、正式には、30日（火）午後1時に開かれる議会運営委員会で決まります。

9月議会で質問する議員は、30日の午前10時までに宮地議長宛に質問の件名と要旨（一般質問発言通告書）を提出することになっています。

森本議員は、現時点で下記8件の質問をする予定です。29日（月）には、議員の手元に届いている議案の内容説明が市の担当者からあります。この説明を聞いて、下記の質問を変更することもあります。

1. 医学奨学生育成の観点から奨学金制度の導入を
2. 学童保育施設の耐震診断と耐震工事の実施を
3. 消防署職員の思い切った増員を
4. 井原市が行っている都市宣言に沿って啓発塔の新設を
5. 肺がん検診の早期発見と精度アップのため、「CT検査」の導入を
6. 在宅血液透析患者への助成制度導入の今後の見通しは
7. 市内にある中・大型の観光案内看板の補修・更新を
8. 放射線量測定器を購入し、定点での定期的測定と希望者には出張測定を



8件目に付いては、「市に器械があるのか」などの市民の声を聴いたので、市環境課に測定器の有無を確認し、無いということだったので、同課に市民の声を紹介し、是非購入していただきたいとお願いしています。

同課では、現在、どの機種が良いのか検討中とのことなので、購入してくだされば件名が変わって来ることも考えられます。

**100号で**

2004（平成7）年12月2日付で「日本共産党 森本ふみお 後援会ニュース」1号を発行し、今月号で100号になりました。

この間、森本ふみお議員の市議会内外の活動内容や、日本共産党の考えや訴えたいことなどを伝えてきました。

100号まで発行できたのは、後援会員の皆様や、多くの日本共産党支持者に支えられたお蔭です。今後も皆様に喜んで読んでいただけるニュースを目指して頑張ります。

引き続き大きなご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

**皆様に  
支えられに**

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

## 日本共産党はこう考えます

しんぶん赤旗  
「主張」より

### 終戦66年 震災・原発事故のさなかに

いまから66年前の1945年8月15日も暑い夏の日でした。31年9月の「満州事変」以来、日中戦争、アジア・太平洋戦争と15年間にわたる戦争で、2000万人を超すアジア諸国民と310万人以上の日本国民を犠牲にした戦争に日本が敗れ、降伏を認めた日です。

終戦66年のことしの「8・15」は、戦後最大の東日本大震災と、いまだ収束のめどが立たない東京電力福島原発事故の中で迎えることになりました。戦争の惨禍に思いをさせ、平和への決意を新たにするとともに、あらためて日本のあり方を見つめなおす機会です。

#### 政治が根本から問われる

66年前の日本の敗戦は、「勝ち戦」を信じ込まされ、戦争に駆り出されていた多くの国民にとって大きな衝撃でした。敗戦によって初めて空襲など「被害」の体験とともに、大義のない侵略と領土拡大でアジア諸国民に被害を与えた「加害」の責任に向き合うことになった国民も少なくありません。

ことしは、中国への侵略を本格化させた「満州事変」から80年、アジア・太平洋戦争に突入した41年12月8日の開戦から70年の節目でもあります。マスメディアなどでいまだに「日本はなぜ戦争へと向かったのか」と問い返され続けていること自体、戦争がもたらした傷跡の大きさを示すものです。

戦後つくられた憲法は「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し」と明記しました。敗戦はそれまでの日本のあり方、政治のあり方を根本的に問い直すものとなったのです。絶対主義的な天皇制は国民主権の政治制度に変わり、侵略戦争を推進した旧軍隊は解散させられました。同時に日本を事実上単独占領した米軍のもとで再軍備が進められ、日米軍事同盟が結ばれていくこととなります。

財閥は解体されましたが、アメリカと結びついた財界・大企業は戦後も復活・強化を続けます。今日深刻な事態をもたらしている原発事故も、核戦略と一体になったアメリカの政策と、日本の政府・電力会社などによる「原発利益共同体」がもたらしたものです。

戦後66年、未曾有の災害となった東日本大震災と東電原発事故は、戦後の日本のあり方を、あらためて根本から問うものとなっています。「原発震災」を警告してきた地震学者の石橋克彦氏は、戦前の旧軍隊になぞらえて国策として進められた原発建設を批判します。

旧軍隊が「大本営発表」で国民の批判を抑え込んだように、原発でも「安全神話」をふりまきマスメディアを総動員して批判を封じてきました。原発事故で「安全神話」が根底から崩壊したいま、原発からの撤退を求める声がほうはいとわきあがるのは当然です。



#### 反対つらぬいた党の存在

「ひとり共産党は終始一貫戦争に反対してきた。従って共産党は他党にない道徳的権威を持っていた」一。かつて自民党の党内研修用の教科書が書いた言葉です。

規模こそ違え、今日もまたかつてない原発事故のなかで、原発推進に反対をつらぬいてきた日本共産党の主張が見直されています。

2年前の政権交代をピークにした「二大政党」制は、行き詰まり破綻しました。新しい政治を探求するうえでも、戦争にも原発にも反対した党があったと、国民に知ってもらうことが大切です。

この「後援会ニュース」は森本ふみお議員の  
ブログ (<http://jcp-seibu.sakura.ne.jp/morimoto/>) でも見れます。

ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。